

# 四高旧蔵ヘルツェル掛図について

## A study on the Ed. Hölzel's Teaching Wallcharts from the Fourth High School's Collection

京都大学名誉教授 松田 清

MATSUDA, Kiyoshi

### はじめに

「デカンショー、デカンショーで半年暮らしゃ、ヨイヨイ、後の半年寝て暮らす、ヨーイヨーイ、デカンショ」。いわゆるデカンショ節は旧制高校のエリートたちがデカルト、カント、ショウペンハウエルなどの哲学書を読みふけた学生生活から生まれた。デカンショ節は今や歴史の彼方に忘れ去られているが、1966年4月筆者が名古屋大学に入学した当時、まだ旧制八高の雰囲気がかすかに残っていた。第3外国語で学んだドイツ語文法書はフラクトゥーア書体の印刷であった。先生曰く、「諸君はいずれこの書体の本を読まなければならなくなるから」。残念ながら、デカルトはローマン書体で、カントは翻訳で、ショウペンハウエルは遂に読まなかったが、今でもオランダ語やドイツ語のフラクトゥーアで印刷された古書に抵抗感がないのは、先生（お名前を忘失）のおかげと感謝している。

### 1. 旧制高校の外国語教育

明治中期以降、高等教育制度が整備され、その基礎教育を担った旧制高校では、あたらしい欧米型の教養主義が導入された。しかし、学問すなわち読書という伝統的な学問観が生きており、四書五経を捨てて西洋哲学書を探り、漢文に代わってドイツ語や英語（フランス語は少数派であった）を学ぶことになっても、エリートたちの受けた外国語教育が読書のための読解中心であったことに変わりはなかった。では、旧制高校の外国語教育において実践的な会話教育はまったく顧みられなかったのだろうか。

### 2. ヘルツェル掛図とは

2004年12月、当時フランス語の教師をしていた京都大学総合人間学部の図書館の地下で水道管が破裂した。地下書庫に眠っていた旧制三高時代の大量の教育掛図が水損を受け、そのなかにウィーンのヘルツェル社製外国語教育用掛図（以下、ヘルツェル掛図と略称）があった。水損事故が契機となって2005年4月から3年間、旧制高校所蔵の教育掛図調査を実施した。その過程で、金沢大学附属図書館、東京大学駒場図書館からもそれぞれ四高、一高旧蔵のヘルツェル掛図が見つかった。

ヘルツェル掛図とは、ウィーンの印刷出版者エドゥアルト・ヘルツェルEduard Hölzel (1817-1885) が息子のフーゴーと共に製作販売した大型のカラー石版（縦90cm、横140cm）シリーズであ

る。エドゥアルトはボヘミアのプラハで生まれ、1844年からモラヴィアのオルミュツで書店を経営していたが、1861年にウィーンに移り、石版技術を生かした印刷出版社を起こした。没後、息子のフーゲーが跡を継ぎ、次の代から会社は人手に渡ったが、創業者のファーストネームを冠したEd. Hölzel社は現在も続いている<sup>(1)</sup>。

2006年3月ウィーン南部のEd. Hölzel社を訪ね、同社の資料室でヘルツェル掛図の試し刷り<sup>(2)</sup>や教師用の掛図教本（フランス語会話、英語会話の二種）を調査した。その帰りに、幸運にもウィーンの本屋で『袖珍版ヘルツェル掛図』（Hand-Ausgabe von Hölzel's Wandbildern. I. Serie. Wien, Ed. Hölzel, ca. 1890. 23×17cm）を入手することができた。この小冊子は、春、夏、秋、冬の4図（見開き、カラー石版）からなり、当時の高等小学校（Bürgerschule）の生徒（10～14歳）がフランス語や英語を学習するために作られたものである（古書店主の説明による）。その裏表紙に印刷された書店広告によって、大型カラー石版のヘルツェル掛図がどのような構成で販売されたかが分かる。

この広告によれば、「直観式言語教育のためのヘルツェル掛図」（Hölzel's Wandbilder für Anschauungs- und Sprach-Unterricht）と銘打たれたこの掛図シリーズはウィーン第一教師会「国民学校」（Die Volksschule）の発議にもとづいて出版されたもので、第Iシリーズは第1図「春」（Der Frühling）、第2図「夏」（Der Sommer）、第3図「秋」（Der Herbst）、第4図「冬」（Der Winter）、第IIシリーズは第5図「農家」（Der Bauernhof）、第6図「山」（Das Gebirge）、第7図「森」（Der Wald）、第8図「町」（Die Stadt）、第IIIシリーズは第9図「パリ」、第10図「ロンドン」、第11図「ウィーン」、第12図「プラハ」からなる。また、オーストリア帝国文部省が国民学校および高等小学校、師範学校、女子師範学校における使用を認可したことも謳われている。オーストリア国立図書館で調べてみると実際に、「ヘルツェル掛図」に対して、1885年6月9日、同年12月21日、1890年5月2日、および1891年10月7日付けで、帝国文部省の使用認可（Ministerial-Erlass）が下りていた。

### 3. 金沢大学附属図書館のヘルツェル掛図

金沢大学附属図書館には、このヘルツェル掛図が計16本も伝わっている<sup>(3)</sup>。内訳は、外題（墨書）に「ヘルツェル独逸語示教図 共七 英語部用」（写真①参照）とあるものが、「春」「夏」「秋」「冬」



写真① ヘルツェル独逸語示教図 共七



写真② 独乙語示教図 共八



写真③ ヘルツェル掛図「独乙語示教図 共八」 「森之部」  
金沢大学附属図書館蔵 (2006年11月30日筆者撮影)

「農家」「森」「町」の7本、「独乙語示教図 共八」(写真②参照)とあるものが、「春」「夏」「秋」「冬」「農家」「山」「森」(写真③参照)「町」8本、別にいずれの外題ももたず単に、「室内図」の墨書(写真②参照)をもつものが1本である。

この「室内図」は別の教師用掛図教本の裏表紙に掲載の書店広告によれば、ヘルツェル掛図の第IVシリーズ第13図「住居」(Die Wohnung)にあたる。この第IVシリーズは「住居」の次に「港」「建築」「鋳山」と続くが、現在まで、残り3図が国内に伝わるかどうか不明である。

筆者が当初調査できたのは14本であった。それらにはすべて「第四高等学校図書」の蔵書印が認められた。うち3本に「明治三十三年四月二十三日製軸 第四高等学校図書室」との書き入れがあり、この時点で改装したものと思われる。いたずら書き、白墨の汚れ、傷み具合などからドイツ語と英語の授業でよく使用されたことが分かる。

幸いなことに、その後、金沢大学図書館の調査により、「英語部用」の「秋」と「独乙語示教図 共八」のうちの「夏」が発見された。また、「独乙語示教図 共八」のセットは同図書館の記録により、明治31年にJordan, Ed., *Materialien für den Anschauungs-Unterricht in den Elementarclassen : erste und zweite Unterrichtsstufe mit Rücksicht auf die Hölzelschen Anschauungsbilder*. Wien, Ed. Hölzel, 1894-1898. (Ed. ヨルダン著『低学年クラス用直観教育教材 ヘルツェル直観図にもとづく学習段階一および二』)と共に購入された、という調査結果をいただいた。しかも、この本は春夏秋冬の各号からなる4冊を四高で合本製本して「独逸示教図説明書」と題をつけたものとのことであった<sup>(4)</sup>。

当時、この知らせを受けて、大変うれしく思った。前述のウィーン調査時(2006年3月)にオーストリア国会図書館でヘルツェル掛図の教授資料を探し求めたが、ヨルダンのドイツ語教授用資料はヘルツェル掛図の第4シリーズ(建築、住居、港、鋳山)にかかわるEduard Jordan, *Materialien für die unterrichtliche Behandlung der Hölzelschen Wandbilder für den Anschauungs- und Sprachunterricht*.

Wien, Ed. Hoelzel, 1902. (エドゥアルト・ヨルダン著『直観式言語教育用ヘルツェル掛図活用教材』しか蔵本がなかったからである<sup>5)</sup>。以来、新出の掛図2本と共に、上記のEd.ヨルダン著『低学年クラス用直観教育教材 ヘルツェル直観図にもとづく学習段階一および二』を実地に閲覧したいと願いながら、いまだに実現していない。

京都大学吉田南図書館(総合人間学部図書館)に伝わる旧制第三高等学校旧蔵ヘルツェル掛図は、「春」「夏」「秋」「冬」「農家」「山」「森」「町」「住居」の9本であるが、四高旧蔵本に比較して使用された痕跡にとぼしく、また購入時期も未詳である<sup>6)</sup>。しかし、その後、東京大学駒場図書館でも旧制第一高等学校旧蔵のよく使用され傷んだヘルツェル掛図6本(「春」「夏」「冬」「山」「森」「町」)を確認できた。こうしたことから、明治31年頃から一高、三高、四高で一斉に購入が始まったのではないかと、推測される。その購入事情は不明であるが、文法と読解に終始する外国語教育に代わって、絵による直観式外国語教育が四高で試みられたことは明らかである。

#### 4. カラー石版とウィーン万博

1861年にウィーンで創業した当初、ヘルツェルはカラー石版による名画の複製と学習地図帳の出版を手がけ、この地図帳で成功を収めた<sup>7)</sup>。1873年のウィーン万博は明治政府が初めて参加した万博であり、技術伝習生として派遣された岩橋教章がオーストリア陸軍地理学校で地図製法を、フリードリヒ・ケーケ(Friedrich Köke)工房で石版技術を学び、帰国後この分野に大きな足跡を残したことが知られている<sup>8)</sup>。ヘルツェルもウィーン万博に石版作品を出品し、「進歩」賞を受賞した。その賞状が現在もEd. Hölzel社に伝わっている。

ウィーン万博公式報告書の「石版・カラー石版部門」を執筆した石版印刷者コンラート・グレーフェ(Conrad Grefe)によれば、当時ウィーンのカラー石版業界は芸術作品の複製と教育用掛図の二分野で国際競争力を付けようと懸命であった<sup>9)</sup>。教育用掛図の業者としてグレーフェはアントン・ハルティンガー(Anton Hartinger, 1806-1890)とともにエドゥアルト・ヘルツェルの名を挙げている。グレーフェ自身、芸術作品の複製を得意とした。

ウィーン万博『公式総合出品目録』初版(1873)所収のオーストリア出品目録をみると、第26部門「教育」には「直観式教育用教材一般」項目の冒頭に、A.ハルティンガーの農業掛図とEd.ヘルツェルの宗教教育用旧約新約掛図が掲げられている<sup>10)</sup>。その後、ハルティンガーは「直観式博物教育用掛図」シリーズ(1880-1892)を出版するが<sup>11)</sup>、これに呼応するかのように出されたのがヘルツェル掛図、すなわち「直観式言語教育用掛図」であった。

なお、三高旧蔵掛図にはヘルツェル社の「地理名所景観掛図」(Hölzel's Geographische Charakter-Bilder)シリーズの一枚「リーゼンゲビルゲの景観」(1900年頃刊)、明治26年(1893)頃購入と思われるルノワール・フォルスター社の「元素原子表掛図」(A.ハルティンガー石版工房製)、「メンデレーフ氏周期律表」(グベルナー・ヒーヤハマー石版工房製)、「マルタン炉図」(C.グレーフェ石版工房製)など、ウィーン製の優れたカラー石版掛図が伝わっており、石版掛図による直観式教育が外国語教育にかぎらず、文系理系にわたる広い分野で導入されたことが推測される。

最後に、外国語教育用ヘルツェル掛図の原画を描いた画家に触れておこう。ほとんど無署名であるが、「秋」図と「山」図は「M. & S. Görlich」、町図は「A. Kunzfeld」の署名を判読できる。後者は未詳であるが、前者は児童書の挿絵画家マリー・ゲルリヒ(Marie Görlich, 1851-1896)とゾフィー・ゲルリヒ(Sofie Görlich, 1855-1893)姉妹である<sup>12)</sup>。Ed.ヘルツェルは仕事の関係でウィー

ンやドイツの多くの画家と交流があった。そうした環境のなかで育った息子の一人アドルフ・ヘルツェル (Adolf Hölzel, 1853-1934) は、グスタフ・クリムトやエゴン・シーレなどの友人を持ち、現代抽象画の先駆者として活躍した。

## 注

- (1) 社史 125 Jahre Ed. Hölzel および Ed. Hölzel 社出版部長 Lukas Birsak 氏のご教示による。
- (2) Ed. Hölzel 社には多版多色石版技術によるヘルツェル掛図の試し刷りが多数保存されていた。ヘルツェル掛図の印刷に使用した石版は残念ながら保存されていなかった。
- (3) 松田清・益満まを編『金沢大学所蔵近代教育掛図目録—印刷図編—』、京都大学大学院人間・環境学研究科、2008、pp. 31-35、pp. 113-114 参照。この目録ではヘルツェル掛図 16 本のうち、14 本について記載。
- (4) 2008 年 9 月 12 日付けで、金沢大学附属図書館情報サービス課の野村洋子氏よりご教示をいただいた。
- (5) 同図書館では、ヘルツェル掛図のための教授用資料としては他に、  
Bechtel, A., *Enseignement par les yeux (Leçon de choses). Edition destinée à l'enseignement primaire supérieur*. Vienne, Ed. Hoelzel, 1893.  
Winter, A., *Hölzels Wandbilder für den Anschauungs-Unterricht in ihrer praktischen Verwendung beim Sprachunterrichte*. 3. Aufl. Wien, Ed. Hölzel, 1904.  
などを調査できた。次注に引用した展示目録の第 IV 部「眼で学ぶ外国語 ヘルツェル社の語学教材」参照。
- (6) 松田清・益満まを編『京都大学所蔵近代教育掛図目録』、京都大学大学院人間・環境学研究科、2007、pp. iii-iv、p. 67、および資料編所収「眼で学ぶ、絵で教える 京都大学所蔵近代教育掛図展 展示目録」参照。
- (7) 社史 125 Jahre Ed. Hölzel による。
- (8) 田中芳男・平山成信編輯『澳国博覧会参同記要』、明治 30 年、下編技術伝習、pp. 24-26 および pp. 213-215 参照。「ケーケ」工房の同定は Lukas Birsak 氏のご教示による。
- (9) *Officieller Ausstellungs-Bericht. Lithographie und Chromographie. Bericht von Conrad Grefe*. Wien, Druk und Verlag der K. K. Hof- und Staatsdruckerei, 1873. pp. 18-19.
- (10) *Welt-Ausstellung 1873 in Wien. Officieller General-Catalog*. Wien, Verlag der General-Direction, 1873. p. 144.
- (11) *Kunst und illustrierte Bücher. Schulwandtafel*. Wien, Antiquariat Löcker, [1985,] pp. 71-72.
- (12) Hans Ries, *Illustration und Illustratoren des Kinder- und Jugendbuchs im deutschsprachigen Raum 1871-1914*. Osnabrück, H. Th Wenner, 1992. p. 554.